

宮城大学 後援会報

Vol.55

発行
令和2年8月31日

発行者
〒981-3298
宮城県黒川郡大和町学苑1-1
宮城大学後援会
TEL022(377)8381
編集
宮城大学後援会事務局

大和キャンパス デザイン研究棟が完成

令和2年6月にデザイン研究棟が完成し、7月9日に完成披露式典が行われました。

デザイン研究棟は、様々なデザイン分野について、クリエイティブ、コンストラクティブ、コーポラティブ、コグニティブ（認知）の能力を養成し、実践する力をつけることを目的に、教員と学生がともに研究に集中できる新たな環境として整備されました。



太白キャンパス スチューデントコモンズ

太白キャンパスでは、学生が主体的に学ぶ空間のひとつとしてスチューデントコモンズを「グループスタディールーム」「セルフスタディールーム」「リラックゾーン」「カフェゾーン」の4ブロックに分け整備いたしました。

後援会では、カフェゾーンの窓際に登米市産クリ材を使用した製作されたカウンタータイプのテーブルとイスを寄贈いたしました。

この場から学生の様々なチャレンジが生まれることを願っています。



▲カフェゾーンに設置された後援会寄贈品



▲カフェゾーンの大学整備備品



▲リラックスゾーン



▲セルフスタディールーム



▲グルーpstudyールーム

記事一覧

2面 ● 後援会・会長あいさつ／役員一覧
3面 ● 学長あいさつ／入学者選抜試験実施状況／後援会総会決議事項

4面 ● 学群長・群長からのメッセージ
5面 ● コラム／感染予防対策について
6面 ● 学生表彰／卒業生の進路／卒業記念品

7面 ● 学びの成果／絆
8面 ● キャンパスカレンダー／教員からの一言／お問い合わせ先

― コロナ禍の状況を判断しながら、運営して参ります。 ―



コロナ禍という未曾有の状況下、キャンパスは閉鎖され、ほぼすべての授業がオンライン講義というかつて経験したことのない事態のなか、早くも前期が終了しようとしています。この間、大学機能を少しでも維持しようと奔走された大学役職員、関係者の皆様から敬意を表し感謝を申し上げます。また、ご父兄はじめ後援会会員、および関係者の皆様には、そのご心労をお察しいたします。

通常であれば、入学式後の総会で皆様の承認を得て会長職に就かせて頂く訳ですが、入学式も中止、その後の学事日程もほぼなくなり、令和2年度の後援会は異例の船出となりました。今後の大学運営および後援会運営につきましても、コロナの状況次第という部分があり不透明ではありますが、後援会主催事業に関しては例年6月開催のサポーターズデイは一旦中止としました。また、秋に開催予定であった講演会

につきましても苦渋の決断ではありますが、中止といたします。なお、お招きする予定であった有森裕子氏には来年度改めてご講演頂くことにしております。

後援会は皆様から入学時にお預かりした会費を原資に、学生が充実したキャンパスライフを送れるよう、学生会、サークル活動、大学祭などの活動を支援、会員の皆様向けには学内を紹介するサポーターズデイや、著名人による講演会などを企画運営しています。特に講演会では地域の皆様へも働きかけ大学の知名度向上に努めるなど、活動を通じて大学の存在価値を高めていくことを目的としております。今年度につきましては、この状況下で何ができるのか、何かできることはないのか、と役員一同悩みながらも少しでも前に進めるよう取り組んでいるところです。会員各位におかれましても様々などご提案、ご意見など事務局へお寄せ頂ければ幸甚です。

最後に、コロナ禍が終息に向かい通常のキャンパスライフが一刻も早く戻り、学生諸君の笑顔が学内に溢れることを願いつつ、会員の皆様には引き続き後援会活動へのご理解とご協力をお願い申し上げます。

後援会会長 関 孝工

令和2年度 後援会役員		
1年間どうぞよろしくお願いします (敬称略)		
役 職	氏 名	
会 長	関 孝 工	
副会長	遠 藤 雄 二	
〃	小 林 英 樹	
〃	下 山 誠	
理 事	岩 佐 浩	
〃	大 野 健 一	
〃	木 口 幸 雄	
〃	佐 竹 加代子	
〃	佐 藤 功太郎	
〃	佐 藤 周 二	
〃	鈴 木 誠	
〃	高 橋 明 子	
〃	田 口 恵	
〃	武 田 篤 彦	
〃	長 岡 勢 子	
〃	福 士 明 嘉	
〃	宮 永 紀 子	
〃	吉 田 和 美	
監 事	沖 野 佳 秀	
〃	下 山 晴 朗	
〃	千 葉 清 純	

※後援会総会に代わり、4/29～5/12まで議案をウェブに掲載し、会員の皆様から質疑を受け付けました。議案に対して質問、異議等がございましたので、議案の通り可決したものとみなされております。

後援会の皆様には、日頃より大学の活動にご理解をいただき、ご支援をいただいておりますことに、御礼を申し上げます。

今年度は、全く例年にならない形でスタートすることを余儀なくされています。新型コロナウイルス感染症の世界的なまん延により入学式を中止せざるを得なくなり、その後についても、遠隔授業を中心とした前期の授業運営を余儀なくされています。

宮城県内で市中感染が確認されるようになったのは3月の終わりでした。この時まで漸次縮小していた学内での活動は、これを境にさらに大きく縮小し、4月上旬の新入学生に対するオリエンテーションも中止ということになりました。オリエンテーションは新入学生が大学生になってはじめて大学に登校する機会になるもので、これを実施できないのは大変残念だったので、そのまま遠隔による活動に移行することとなりました。

感染がまん延し始めた初期において、多くの人々は早期の終息に期待し、それまでの期間は我慢をしようという受け止めであったと思います。しかし、このウイルスを克服するのは容易ではなく、今や新たな生活様式によって流行を抑制しながら経済・社会活動を復活させていくという「With コロナ」の時代と定義されるに至っています。遠隔授業については、その教育効果を評価するには実績が不足していますが、多くの大学でみられたPCや通信の障害という事態は、本学では授業の遂行に支障をきたすほどのものにはなら



大学の新たな生活様式と教育効果の両立

公立大学法人宮城大学理事長兼学長 川上 伸昭

ず、全体として概ね順調に経過しています。これには、全学生が入学時にPCを用意することになってちょうど4年目を迎え、ほとんどの学生がPCを所持していたことが前提にあります。入学時にPC購入のご負担を受け入れていただいたことに感謝を申し上げます。遠隔授業は教員にとっても学生にとっても慣れないことで、戸惑いがありました。良い発見も多くあるようです。対面では恥ずかしがって発言しない学生が積極的に発言して議論が盛んになっている、集中心力が授業の理解度が上昇しているといった多くの情報が教員から寄せられています。反面、学生一人ひとりが孤立し、不安を抱えているという点も見逃せないことです。し、実験や実習の中には画面では限界のあるものがあり、これからは学生に登校してもらい、対面の活動を復活させていく必要があります。そのために、感染リスクの制御と教育効果を両立させる取り組みを定着させていくことが課題になります。

一般的にリスク感受性には個人差が存在します。このことが社会の中で集団として行動していくときにストレスを引き起こすことがあります。大学としてはこのことを念頭におきつつ、適切に配慮しながら活動を進めていくにしていますので、ご理解とご協力をお願いします。

世界は非常に困難な時代に置かれています。教職員一同、負けずに本学の活動を進めるよう取り組みでまいります。引き続き、よろしくご支援賜りますようお願い申し上げます。

令和2年度入学 宮城大学入学者選抜試験実施状況

学 群	募集人員	実質競争倍率	入学者数	入学者詳細				
				性 別		出身校		
				男	女	県内	県外	その他
看 護	95	2.7	103	7	96	74	29	0
事 業 構 想	200	2.4	212	92	120	152	58	2
食 産 業	125	1.8	131	40	91	71	57	3
合 計	420	2.3	446	139	307	297	144	5

※出身校は、卒業高校等所在地で分類（外国人留学生はその他に分類）

令和2年度入学 宮城大学大学院入学者選抜試験実施状況

研 究 科	募集人員	実質競争倍率	入学者数	入学者詳細	
				性 別	
				男	女
看護学研究科博士前期課程	10	1.1	13	2	11
看護学研究科博士後期課程	3	1.0	1	0	1
事業構想学研究科博士前期課程	20	1.0	11	8	3
事業構想学研究科博士後期課程	3	2.0	1	0	1
食産業学研究科博士前期課程	13	1.0	10	5	5
食産業学研究科博士後期課程	3	1.0	1	0	1
合計	52	1.1	37	15	22

令和2年4月 後援会総会決議事項（事業・予算関係）

令和2年度 事業計画

	内 容
総会	4月
理事会	年6回
特別委員会	学生代表との意見交換会（キャンパス毎） 会長副会長会議 年2回
学生会活動助成	執行部、新入生歓迎会、サークル、大学祭、ガーデンキャンパス
支援事業	資格取得奨励金支給 進路対策事業支援 留学生住宅総合補償金一部助成
入学記念事業	新入生へ記念品（校章ピンバッジ）配付
卒業記念事業	卒業生(学群生)へ記念品配付 卒業記念パーティー部費用助成
主催事業	MYUサポーターズデイ（キャンパス毎） 講演会
終身会員の集い	第3回
会報発行	第55号・第56号

※新型コロナウイルス感染症の拡大状況等により、事業計画を見直すことがあります。

令和2年度 一般会計予算

項 目	予算額	備 考
会費	17,000,000	新入生・編入生・終身会員
収入	0	
繰越金	5,288,131	
入 計	22,288,131	
事務費	2,870,000	人件費、通信費等
会議費	350,000	理事会・特別委員会経費
事業費	12,986,000	学生会活動助成等
入学記念事業費	386,400	入学記念品（校章バッジ）
卒業記念積立金	2,100,000	卒業生記念品
記念事業等積立金	2,500,000	
予備費	1,095,731	
出 計	22,288,131	

令和2年度 特別会計予算

(卒業記念事業積立金)		
項 目	予算額	備 考
積立金	2,100,000	入学生420人×5,000円(一般会計より)
繰越金	7,525,294	
入 計	9,625,294	
事業費	1,533,000	学生への記念品 他
卒業記念事業積立金	8,092,294	
出 計	9,625,294	
(記念事業等積立金)		
項 目	予算額	備 考
積立金	2,500,000	一般会計より
繰越金	10,123,335	
入 計	12,623,335	
事業費	0	
事務費	100,000	終身会員の集い
記念事業等積立金	12,523,335	
出 計	12,623,335	

平成31年度・令和元年度 事業報告

	内 容
総会	4月3日
理事会	年6回
特別委員会	大学支援検討委員会 会長副会長会議年5回
学生会活動助成	執行部、新入生歓迎会、サークル、大学祭
支援事業	資格取得奨励金支給 進路対策事業支援 留学生住宅総合補償金一部助成 20周年記念事業(太白スチューデントcommons家具)
入学記念事業	新入生へ記念品（校章ピンバッジ）配付
卒業記念事業	卒業生（学部生）へ記念品とQUOカード配付
主催事業	MYUサポーターズデイ（キャンパス毎） 講演会
終身会員の集い	第2回
会報発行	第53号・第54号

平成31年度・令和元年度 一般会計決算

項 目	決 算 額	備 考
会費	18,200,000	新入生・終身会員
収入	240,605	前年度サークル助成清算戻し入れ
繰越金	2,971,391	
入 計	21,411,996	
事務費	2,691,013	人件費、通信費等
会議費	326,160	理事会費用弁償費等
事業費	8,963,812	大学祭助成、進路対策費等
入学記念事業費	389,340	校章ピンバッジ配布
卒業記念積立金	2,240,000	卒業生記念品
記念事業等積立金	1,200,000	
予備費	313,540	
出 計	16,123,865	

平成31年度・令和元年度 特別会計決算

(卒業記念事業積立金)		
項 目	決 算 額	備 考
積立金	2,240,000	入学生448人×5,000円(一般会計より)
繰越金	6,694,744	
入 計	8,934,744	
事業費	1,409,450	学生への記念品
卒業記念事業積立金	7,525,294	
出 計	8,934,744	
(記念事業等積立金)		
項 目	決 算 額	備 考
積立金	1,200,000	一般会計より
繰越金	11,487,435	
入 計	12,687,435	
事業費	2,464,550	20周年記念事業 (太白スチューデントcommons家具)
事務費	99,550	第2回終身会員の集い
記念事業等積立金	10,123,335	
出 計	12,687,435	

看護の学びを未来につなげる

看護学群長 高橋和子



毎年4月は、晴れて宮城大学の学生となった新入生のキラキラした笑顔で大学が明るくなります。本年度4月から看護学群長を拝命し、看護学群長として、新入生の皆さんを迎え入れることを楽しみにしておりましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、入学式は中止となり、新学期も通常の時期から遅れて遠隔授業での開始となりました。

宮城大学では、これまでも一度、新学期の開始が遅れたことがあります。それは、東日本大震災の時です。在学していた学生にとって震災は、これまで経験したことのない衝撃であったと思います。その中で、看護学生である自分たちができることは何か、看護を学んだ学生として何ができるかを懸命に考え、取り組んでくれました。そして、その思いは、新たに入学する学生に今も引き継がれています。

看護は、いつの時代も、新たな難題に直面しながら、人の命を守ることに貢献してきました。宮城大学で看護を学び始めた皆さんと共に、これからつながる看護を目指していききたいと思っています。

学群長・群長からのメッセージ

自分を信じて

あきらめないこと

基盤教育群長 川村 保



学生の皆さんには、一生懸命勉強をしているのに成績が伸びないという経験をお持ちの方もいるのではないのでしょうか。潜在的には能力は上がっているのに、それを自覚する機会がなかっただけ、ということが多々あります。努力を続けていれば、潜在的な能力は必ず向上します。

その潜在的な能力が表にはつきりと現れるのは、例えば定期試験などの限られた場面です。そのような場面で自分の能力が高まっていることを自覚できると、自信がついてもっと頑張ろうという気になり、そこから「努力↓能力向上↓自信↑努力↑…」という好循環が始まります。しかし、途中で努力を止めてしまえば、せっかく高めた潜在能力は元に戻ってしまいます。

学生の皆さんには、潜在的な能力の向上を信じ、簡単にあきらめず努力を続けることを期待します。保護者の皆様には、学生が自分に自信を持てるよう、学生を温かく見守り、必要なサポートをよろしくお願いいたします。

大学における感染予防対策の様子を一部ご紹介



▲A | 検温システム



▲手指消毒



▲学生証を読み取らせ入退館を記録



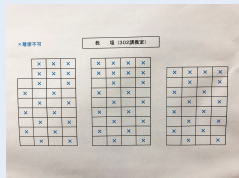
▲学内の周知ポスター



▲ソーシャルディスタンスを確保するため座席数を減らしています(講義室)



▲ソーシャルディスタンスを確保するため、着席不可の場所には×印



▲ソーシャルディスタンスを確保するため、着席不可の場所には×印

PROJECT DESIGN、その言葉が志向する学びの領域

事業構想学群長 中田千彦



事業構想を英語ではPROJECT DESIGNと表記します。事業プランニング、地域創生、価値創造デザインという3つの学類を束ねた学群の名前にDESIGNという言葉が使われています。私たちが長らく文明を発展させてきた中で、人々が叡智を結集しより魅力的な生活を持続、展開していくために取り組んできた多くの試行錯誤の成果そのものがデザインという言葉で表わされているように思います。デザインが意味するものは、単に造形や機能にとどまらない、多岐にわたる創意工夫も含まれています。であるならば、ビジネスや社会の仕組みづくりもデザインとして捉えることは十分可能ですし、むしろそう考えることで、学問や研究の領域そのものも色鮮やかな印象を持つて目の前に展開していくのではないのでしょうか。デザイン研究棟が新たに建設され、さらに先鋭的な教育と研究の場が整いました。事業構想として、それを活かし、大学に集う若い人たちに、このデザインの可能性を思う存分堪能、享受していただきながら、個々の学びの奥行きと広がりを獲得していただきたいと思っています。

column

コラム「行き当たりばったり」⑤

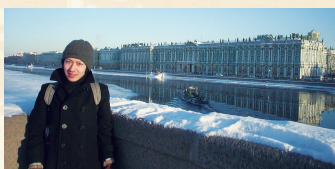
「人間万事塞翁が馬？」

基盤教育群講師 仲宗根 卓

そして、学部卒業後は大学院に進学して国際法を学ぶことに決めた。つまり、不本意で選んだロシア語が原因で国際法を研究することになったのである。

ロシア語から国際法へ移籍した理由を振り返ってみると、人生において何がきっかけとなって今に至るのかは全く予測がつかないものだなと、しみじみ感じるのである。しかも幸いなことに、これまでの何気ない選択が人生を総じて良い方向に導いてくれている気がする。あと50年くらいは生きる予定なので、最終的な結論はまだ分からないけれども。

キャリア指導を担当している立場上、学生には「人生設計は堅実に立てるように」と偉そうなことを言ってきたが、今後は、「何気なく選択した道でも本気で取り組めばおのずと道は開けてくるよ」、という指導方針に改めたいと思う。童顔なのにやけに年寄り臭いことを言うヤツだと思われて信用してくれなさそうなのが気がかりだが。



▲ロシアのサンクト・ペテルブルクにて。

(なかさね すぐる)
大阪大学大学院法学研究科博士後期課程単位修得退学。博士(法学)。専門は国際法学。2017年より現職。

「どうしてロシア語を選んだのですか」。学部時代にロシア語を専攻していた私が未だによく受ける質問である。現在は、国際法というロシア語とは全く別の分野の研究をしている理由よりも、かつてロシア語を選択した事情の方に関心があるようだ。質問者は、「反資本主義だから」というようなイデオロギーに絡む答えを期待しているようだが、生憎、私はそのような思想は持ち合わせていない。単純に、「センター試験の結果が芳しくなかったから、安全牌で倍率の低そうなロシア語を選んだ」だけのことである。このように答えると、それまでニヤニヤしていた質問者の顔が醒めていく様をこれまで何度も見てきた。なんだか悔しいので、公私混同も甚だしいが、せっかくの機会なのでこの場をお借りして、国際法に較替えた理由を少しだけお話を頂きたい。

さて、消極的な理由でご縁ができたロシア語ではあるが、生来真面目な性格ゆえにそれなりに本気で勉強した。他の科目は壊滅的であったが、ロシア語の成績だけは良かったので、ロシアへ留学する機会を得ることができた。そして、留学中の長期休暇で訪問したポーランドのアウシュヴィッツ強制収容所で目の当たりにした光景が私の将来の選択に影響を与えることになった。戦時においてゴミ屑同然のように扱われる人間の尊厳を守るにはどうすればよいのか、深く考えさせられた。その答えが、大学で履修したことがある国際法の研究だった。

コロナなんかには負けないで！

食産業学群長 西川正純



後援会の皆さま、そして学生の皆さん、いかがお過ごしでしょうか。
新型コロナウイルス感染症拡大により、社会情勢は一変し、ニューノーマルの生活様式が求められてきております。当学では、4月から学生さんの登校を控えていただき遠隔による授業を実施して参りました。食産業学群では5月下旬から実験実習が必要な大学院生、6月から卒業研究に取り組む4年次学生について、徐々にですが登校が始まり、無事、前期授業を終えることができました。学生の皆さんのご協力に感謝申し上げます。

後期授業からはソーシャルディスタンスを維持しながら面接講義を実施できるよう、現在施設の改修を進めているところです。

新型コロナウイルス感染症は長期化の様相を呈しておりますが、9月17日からスタートします後期授業で皆さんと元気な姿で直接お会いできることを食産業学群教職員一同、心より楽しみにしております。コロナなんかには負けず頑張つて参りましょう！

学びの成果

新商品開発とデジタルマーケティングの実践を通じたリーダー人材育成への挑戦 ～地域連携型「MYUシードル」プロジェクト～

大嶋研究室では、地域と連携して新商品開発とデジタルマーケティングを実践して「見える成果」を創出すると共に、未来のリーダー人材となるべく学生の早期成長を促すという二つの目的を併せ持つ「地域連携型PBL(Project Based Learning)プロジェクト」に取り組んでいます。

2019年4月に本学着任後、6月の秋保温泉ゼミ合宿で秋保ワイナリーの毛利社長に復興への努力を伺い、「秋保応援策」に取り組むことにしました。

様々な施策を検討した結果、「①Instagramなどデジタル活用での秋保・宮城の魅力発信」と「②地元支援に役立つシードル(りんごのスパークリングワイン)の新商品開発とマーケティング」を組み合わせ、長期的には観光促進に繋げる地域連携プロジェクトを開始しました。この過程で、アキウツーリズムファクトリーなど地域のパートナーや、秋頃からは食産業学群「食の応援団」とも連携するなど輪を広げました。

学生達は、りんごの収穫や仕込み等のリアル体験に加えて、400人のアンケート調査を実施して商品コンセプトを策定しました。また、公式サイト「MYU Cider」構築や、Instagram、Facebook、Twitter

▲秋保応援のInstagram

【秋保・宮城・東北の観光促進にデジタル活用×シードル製品開発×α】

Instagram: @myu_cider

Facebook: MYU Cider

Twitter: MYU Cider

YouTube: MYU Cider

公式サイト: https://oshima-lab.wixsite.com/myu-cider

2019年10月21日

秋保ワイナリー

秋保ワイナリー

秋保ワイナリー

秋保ワイナリー

秋保ワイナリー

秋保ワイナリー

秋保ワイナリー

秋保ワイナリー

秋保ワイナリー

秋保ワイナリー

秋保ワイナリー

秋保ワイナリー

秋保ワイナリー

秋保ワイナリー

秋保ワイナリー

秋保ワイナリー

秋保ワイナリー

秋保ワイナリー

秋保ワイナリー

秋保ワイナリー

秋保ワイナリー

秋保ワイナリー

秋保ワイナリー

秋保ワイナリー

秋保ワイナリー

秋保ワイナリー

秋保ワイナリー

秋保ワイナリー

秋保ワイナリー

秋保ワイナリー

秋保ワイナリー

秋保ワイナリー

秋保ワイナリー

秋保ワイナリー

秋保ワイナリー

秋保ワイナリー

などを複合的に運用して、企業さながらのデジタルマーケティングを実践したり、学内でラベル・コンテストを主催して商品の独自性を高めたりしました。

さらに、本プロジェクトの周知を目的に、秋保ワイナリーとクラウドファンディングに初挑戦しました。ところが、準備不足で計画通りに進まず、目標達成が危ぶまれました。試行錯誤を繰り返す中、学生達は目的を見つめ直して「自分の言葉で語れる」ようになり、周囲のネットワークを積極的に活用して、最終的に150%の目標達成に成功しました。

このような活動を発展させるため、今年度から仙台放送・地産地消市場 仙臺いろは様と連携し、ECサイト等を通じて地域を応援するプロジェクトも推進しています。

私は「若い年代からリーダー人材を育成することが、復興支援・地域活性化への道」だと信じます。これからも、このような試みを暖かく応援して頂ければ幸いです。

【大嶋淳俊 研究室サイト】<https://oshima-lab.wixsite.com/research>

事業構想学群教授 大嶋淳俊

【シードル商品開発with 秋保ワイナリー×デロワーズで観光促進】

1. 秋保ワイナリーと地域連携型PBL(食品開発からデロワーズで観光促進へ)

2. アンケート情報調査、マーケティング(食べ合わせ)研究などデータと感性に基づく

新しいシードル(はじけやシードル)の商品開発

3. ラベルコンテストの開催とクラウドファンディングによる商品開発の資金

4. クラウドファンディングによるPR策定・販売、イベント開催

公式サイト: <https://oshima-lab.wixsite.com/myu-cider>

2019年10月21日

秋保ワイナリー

秋保ワイナリー

秋保ワイナリー

秋保ワイナリー

秋保ワイナリー

秋保ワイナリー

秋保ワイナリー

秋保ワイナリー

秋保ワイナリー

秋保ワイナリー

秋保ワイナリー

秋保ワイナリー

秋保ワイナリー

秋保ワイナリー

秋保ワイナリー

秋保ワイナリー

秋保ワイナリー

秋保ワイナリー

秋保ワイナリー

秋保ワイナリー

秋保ワイナリー

秋保ワイナリー

秋保ワイナリー

秋保ワイナリー

秋保ワイナリー

秋保ワイナリー

秋保ワイナリー

秋保ワイナリー

秋保ワイナリー

秋保ワイナリー

秋保ワイナリー

秋保ワイナリー

秋保ワイナリー

秋保ワイナリー

秋保ワイナリー

秋保ワイナリー

秋保ワイナリー

秋保ワイナリー

秋保ワイナリー

秋保ワイナリー

秋保ワイナリー

秋保ワイナリー

秋保ワイナリー

秋保ワイナリー

秋保ワイナリー

秋保ワイナリー

秋保ワイナリー

秋保ワイナリー

秋保ワイナリー

秋保ワイナリー

秋保ワイナリー

秋保ワイナリー

秋保ワイナリー

秋保ワイナリー

秋保ワイナリー

秋保ワイナリー

秋保ワイナリー

秋保ワイナリー

秋保ワイナリー

秋保ワイナリー

秋保ワイナリー

秋保ワイナリー

絆 No.24

すべての未来は自分の中からはじまる

食産業学部フードビジネス学科 平成22年度卒 宍戸 元紀

私は決して優秀な学生ではありませんでした。

だからこそ「学ぶ」ことの楽しさを宮城大学で知ることができました。

今、私が仕事をする上で思うことは、どんなことから学ぶはあり、未来はその中から生まれるということ。なぜそう思うのか？それは、過去の出来事と今の仕事に関係しています。

私の人生観を変えた大きな出来事が2つあります。

1つ目は大学入学直前の父の死。2つ目は大学卒業直前の東日本大震災です。どちらの出来事も私の生活を一変させ、当たり前のことが当たり前じゃないということを経験しました。ライフラインもなかなか確保できない期間や不安な時期を過ごし、家族や親戚、友人の無事や健康を祈りました。ここでの学びは、一身近な人とのつながりの大切さでした。

大学卒業後は、仙台の老舗食品メーカーで商品開発の仕事に従事しました。開発の仕事は忙しかったですが、「美味しいものは人を笑顔(幸せ)にすること」を学びました。

そして今、私は仙台初のパウンドケーキ専門店「YOU & G(ユージー)」というオンラインショップを運営しておりま

在校生、卒業生、教職員など、さまざまな立場で宮城大学に関わっている方から寄せられた思いでつなぐ「絆」。今回は「すべてが学びであり、楽しみである。」と語る、宍戸元紀(ししど げんき)さんは宮城大学の卒業生です。ご活躍のベースにあるものを教えてくださいました。

す。パウンドケーキで人と人をつなげ、喜びと豊かさのある世界の実現と家族が幸せでいられる食卓の実現を目指し、商品の企画、製造、販売をひとりで行っており。常にチャレンジが必要なお仕事ですが、すべてが学びであり、楽しみです。

大学生の頃は、私自身、こんな未来が待っているとは思いませんでした。しかし、過去を振り返ると、現時点での考えや仕事につながっていることが分かったんです。どんなに大変でも、失敗することがあっても、学ぶ姿勢があれば必ず未来につながります。

今、世界

中が大きく

変わろうと

しています。

す。さあ、

この状況か

ら何を学

び、どんな

未来をはじ

めますか？



▲宍戸さんと「男女絶賛」のパウンドケーキ



令和元年度 学生表彰

在学中に研究活動、課外活動、社会活動、学業において顕著な成果をおさめた学生に対して、学長賞、学長奨励賞が贈られました。今回は、個人12人と4団体が受賞しました。

学長賞

―研究活動において、特に顕著な成果をあげたもの―

●加川 響馬(食産業学研究科博士前期課程 1年)

財団法人日本畜産学会において日本畜産学会優秀学生賞を受賞

―課外活動において、特に顕著な成果をあげたもの―

●三浦 敏彦(事業構想学部デザイン情報学科 4年)

2019年北斗旗全日本空道無差別選手権大会東北予選で4位に入賞し、同全国大会に出場

―学業において、特に顕著な成績を修めたもの―

●細川 亜衣(看護学部看護学科 4年)

●山本紗矢香(看護学部看護学科 4年)

●木村 優希(事業構想学部事業計画学科 4年)

●芳賀里佳子(事業構想学部デザイン情報学科 4年)

●今藤 俊宏(食産業学部環境システム学科 4年)

学長奨励賞

―研究活動において、顕著な成果をあげたもの―

●人見 翔(食産業学部ファームビジネス学科 4年)

令和元年度園芸学会東北支部大会において発表賞を受賞

●佐々木 瞳(食産業学研究科博士前期課程 2年)

食品科学工学会東北支部会において若手奨励賞を受賞

―課外活動において、顕著な成果をあげたもの―

●千葉慎太郎(事業構想学群事業プランニング学類 3年)

株式会社宣伝会議主催の第11回販促企画コンペティションにおいて、協賛企業賞を受賞

●堀川 琳花(事業構想学部デザイン情報学科 4年)

第23回JIA東北建築学生賞に本校推薦作品として入賞

―社会活動において、顕著な成果をあげたもの―

●看護学部4年安齋ゼミ(任意団体)

宮城大学敷地内完全全面禁煙に関する啓蒙活動ならびに禁煙教育を実施

●永沼 美智(看護学部看護学科 4年)

東日本大震災被災地の子どもたちへの継続的なボランティア活動を実施

●GaLa(任意団体)

第3回仙台若者アワードで優秀賞を受賞

●娘すずめ。(サークル)

仙台すずめ踊り2019学生祭連大賞すずめ学園天国で若大賞を受賞

●@GREEN(任意団体)

被災者支援ボランティア活動を行い、みやぎ食育表彰において奨励賞を受賞

＝表彰された皆さま、おめでとうございます。＝

令和元年度 卒業記念事業

卒業生へ記念品(シャチハタネーム印)と

ＱＵＯカードを贈呈しました。

(例年、謝恩会の費用を一部助成しておりましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため謝恩会は中止となりました。謝恩会費用の一部助成に代わりＱＵＯカードを贈呈いたしました。)

新型コロナとオンライン授業

食産業学群教授 白川 愛子

今年は新型コロナウイルスの感染拡大により、残念ながら卒業式も入学式も実施できず、寂しい春となりました。非常事態宣言が全国に拡大されてから、対面授業が実施できず、急遽オンライン授業に踏み切ることになりました。時々学生さんにスマホの使い方を教わる年寄りには、オンライン授業はハードルが高かったのですが、木村先生や諸先生方に教えていただき、何とか実施することができました。100人越えの授業は回線の不安定さもあり、初回は一時スライドが固まることもありましたが（後に回復）、初めての遠隔授業ということで、コメントには励ましや労いの言葉が多く、思わず苦笑してしまいました。

担当している栄養科学は、身近な食生活や健康に関わる内容なので、毎回、学生さんから多くのユニークな質問や意見をいただきます。次の講義で質問に回答・解説していくと、遠隔授業ながら対話している感覚になり、楽しく授業をさせていただいております。感染が落ち着いたら対面授業・実習を実施しますが、今後あらゆる場面で、必要に応じてオンラインシステムが活用されることになると思われます。教育のあり方や働き方の大きな変化を実感しました。



▲今春卒業した白川研の学生さんたちと



令和2年度MYU キャンパスカレンダー

令和2年

4月

入学式、コンボケーション・デイ(春)、**後援会総会**を中止

27日(月) 遠隔授業(前期)が開始

29日(水) 後援会総会議案をウェブ掲載(～5/12まで質疑受付)

5月

1日(金) 開学記念日

6月

後援会主催事業「MYUサポーターズデイ」を中止

7月

オープンキャンパスはオンラインコンテンツ配信に変更

8月

前期試験(～8/11前期授業終了)

12日(水) 夏季休業(～9/16)

12日(水) 教職員夏季休暇(～8/18)

9月

15日(火) 入試日(大学院)

16日(水) 卒業式・学位記授与式(9月卒業分)

17日(木) 後期授業開始

25日(金) コンボケーション・デイ(秋)を中止

10月

3日(土) 大学祭(～10/4大和)を中止

3日(土) **後援会主催事業「講演会」**を中止

10日(土) 大学祭(～10/11太白)を中止

11日(日) 入試日(総合型選抜1次)

11月

7日(土) 入試日(総合型選抜2次～11/8)

12月

5日(土) 入試日(帰国子女・社会人・外国人留学生)

26日(土) 冬季休業(～1/6)

29日(火) 教職員冬季休業(～1/3)

令和3年

1月

16日(土) 大学入学共通テスト第1日程(～1/17)

22日(金) 後期試験(～1/28)

23日(土) 入試日(大学院二期・二次募集)

30日(土) 大学入学共通テスト第2日程と再追試験(～1/31)

2月

7日(日) 入試日(学校推薦型選抜)

13日(土) 大学入学共通テスト特例追試験(～2/14)

25日(木) 入試日(一般選抜前期 ～2/26)

3月

12日(金) 入試日(一般選抜後期 ～3/13)

19日(金) 卒業式・学位記授与式

日程変更の可能性がございます。

主催事業「講演会」

毎年、多数ご来場いただいております「講演会」は、新型コロナウイルス感染症の発生等により、今年度の開催を中止することといたしました。楽しみにされていた会員の皆様には大変申し訳ありませんが、ご理解いただけますようお願いいたします。

なお、今年度講師としてお招きする予定であった「有森裕子氏」には、令和3年度の講演を依頼しております。

役員及び事務局では、新型コロナウイルス感染症が収束することを願いながら、開催に向けて準備してまいります。

講演会の開催日が決まりましたら、後援会報または郵送などでご案内いたします。

[中止に伴い今年度の講演会予算の執行はありません。来年度の講演会については、今年度と同規模の予算にて計画する予定です。]

お問い合わせ先	大和キャンパス (看護・事業構想)	太白キャンパス (食産業)
教務関係 [カリキュラム・シラバス等]	kyoumu@myu.ac.jp	f-kyoumu@myu.ac.jp
学生生活関係	gakusei@myu.ac.jp	f-kyoumu@myu.ac.jp
キャリア開発室 [就職関係]	careerdev@myu.ac.jp	f-career@myu.ac.jp
後援会事務局	myu_kouenkai@myu.ac.jp	

お問い合わせの際は、ご子女の「お名前」「所属学群」「学籍番号」もあわせてお知らせください。

編集後記

3月の卒業式、4月の入学式そして後援会総会や6月のサポーターズデイなど、大学や後援会の行事が次から次へと新型コロナウイルス感染症拡大防止で中止となり、行事で季節を感じることが出来ない日々でした。

学生の高らかな声がキャンパスに響きわたる日々が訪れることを待ち望みながら「一日も早く終息しますように」と願って。(Yu)

